

2022年6月21日

各 位

会 社 名 京阪神ビルディング株式会社
代表者名 代表取締役社長 若 林 常 夫
(コード番号 8818 東証プライム)
問 合 せ 先 常務執行役員管理統括 多 田 順 一
(TEL 06-6202-7333)

マテリアリティに紐づく取り組みとKPI設定に関するお知らせ

当社は、持続的な企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けて、マテリアリティに対する具体的な取り組みとKPIを定めましたので、お知らせいたします。

記

1. マテリアリティに紐づく取り組みとKPI

当社は、持続的に成長するうえで重要度の高い課題の中から、特に優先して取り組むべきものをマテリアリティとして特定し、マテリアリティに紐づく取り組みとKPIを設定しました。

なお、マテリアリティに紐づく取り組みとKPIは、外部環境の変化等を踏まえ、定期的に確認と見直しを行い、効果的な取り組みを推進してまいります。

ESG	重要課題 (マテリアリティ)	取り組み	KPI
環境 (Environment)	気候変動に対する レジリエンス強化	・気候変動の事業への影響評価、 モニタリングの実施 ・GHG排出量、水使用量、 廃棄物排出量の削減 ・環境不動産認証の取得推進 ・「ZEBの実現・普及に向けた ロードマップ」に沿ったZEB化 対応の推進 ・ビル省エネの推進	・サステナビリティ委員会における 気候変動のモニタリング実施 :年1回以上 ・GHG排出量:2030年までに Scope1,2部分を46%削減 上記のうち省エネによる エネルギー使用量の削減を通じて 2030年度までにGHG排出量の 10%を削減 ・水使用量:定量目標なし ※ ・廃棄物排出量:定量目標なし ※ ・2030年までにグリーンビル認証取 得推進(今後の新築物件全てで認 証取得、延床面積の50%以上)
	環境負荷低減策 による資源の 持続可能な利用	・再生エネルギーの利活用 ・ビルの長寿命化運用	・再生エネルギー導入

※廃棄物及び水使用量については、基礎データの整備を進めている段階であるため、現状では定量目標を設けておりません。準備が整い次第、定量目標設定を行い開示を行う予定です。

ESG	重要課題 (マテリアリティ)	取り組み	KPI
社会 (Social)	安全・安心・快適な空間の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・予防保全によるビルの品質維持 ・BCP、BCMの強化 ・オフィスビルの健康性能と快適性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防保全計画の進捗実績100%の維持 ・定期的なBCP対策マニュアルの見直し ・顧客満足度調査:年1回以上
	環境や時代の変化を捉えた事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業の検討 ・地域ポートフォリオの分散 ・データセンタービル賃貸事業の強化 	—
	サステナブル経営に則った投資家・株主との建設的な対話の実施	公平かつ適時適切な情報開示、建設的な対話の促進	説明会の実施:年4回以上
	ESGを意識したパートナー企業との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナー企業との環境、社会課題への協働取組(研修含む) ・サステナブル調達の推進(パートナー企業での人権尊重、安全衛生の推進) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパートナーとの定例会議:年4回以上 ・人権に関するアンケートの実施
	地域・コミュニティとの共存共栄	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・コミュニティへの貢献活動の実施 ・地域とのリレーション向上(情報交換の機会の確保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動の実施:年10回以上 ・地域コミュニティの会合への参加:90%以上
	人権の尊重、ダイバーシティ&インクルージョン	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の多様化への対応 ・外部人材の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する勉強会の実施:年1回 ・新卒採用の男女比50%(5年平均値)
	人的資本の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率、生産性の向上(DX推進) ・人材育成の推進 ・従業員の健康増進の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・有給消化率:70%以上 ・人材育成に係るコストの開示 ※ ・健康診断受診率100%の維持

※準備が整い次第、開示を行う予定です。

ESG	重要課題 (マテリアリティ)	取り組み	KPI
統治 (Governance)	事業環境の変化に 適応する財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・堅固な財務基盤の維持 (信用力を活かした低コストな 資金調達の実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・格付信用力A-以上の維持 ・自己資本比率30%以上 ・NET有利子負債/EBITDA倍率 10倍以内
	組織のレジリエンス 強化	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンスガイド ラインの定期的な見直し ・BCP訓練の実施 ・リスク管理委員会による、 各リスクに応じた対策の立案と 進捗管理の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンスガイド ライン見直し:年1回 ・BCP訓練の実施:年1回 ・リスク管理委員会の開催 :年4回以上
	取締役会の実効性 向上	<ul style="list-style-type: none"> ・取締役会の実効性評価への 第三者の関与 ・取締役会の多様性の確保 ・取締役に対する研修等の実施 ・指名報酬委員会の社外取締役 比率、過半数の維持 ・十分な審議時間の確保 (事前説明の実施、附議基準の 見直し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・取締役会の社外取締役比率、 過半数の維持 ・女性取締役1名以上 ・指名報酬委員会の社外取締役 比率、過半数の維持
	サステナブル経営 を支えるコンプライ アンスの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての階層の従業員を対象 としたコンプライアンス教育・ 研修の実施 ・コンプライアンス委員会による、 コンプライアンス施策実施状況 の把握・調査 ・外部弁護士を窓口とした 社内報告相談制度の運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修の実施 :年1回 ・コンプライアンス委員会の開催 :年4回以上

以 上